

日本地域学会ニューズレター

令和 2 年 no. 1

令和 2 年 2 月 28 日

目 次

I. 副会長挨拶	… 2
II. 第 57 回日本地域学会年次大会(令和 2 年 9 月 11～13 日(予定))のご案内 論文報告の募集, シンポジウムについて	… 4
III. 総会報告 久留米大学で開催された日本地域学会総会についての報告	… 5
IV. 理事会報告 令和元年度第 5・7 回	… 6
V. 委員会報告 1. 優秀発表賞選考委員会(受賞者の紹介) 2. 機関誌編集委員会(第 64 回についての報告)	… 8
VI. 会費納入のお願い 令和 2 年度会費請求額, 会費早期納入の特典, Web 会員について	… 9
VII. 国際地域学会関連会議のお知らせ	… 10
VIII. 学会賞候補者推薦の募集	… 11
IX. 会員の移動	… 12
『地域学研究』バックナンバー申込書	… 14
正会員入会申込書	… 15

注意：令和 2 年度会費請求書が同封されています。

(納入期限 令和 2 年 3 月末日)

I. 副会長挨拶

日本地域学会会長
松本昭夫

副会長挨拶：

Publishing in top journals is not an easy job.

数多の日本地域学会会員は、日頃、多くの時間を研究のために費やしていることと拝察します。苦しみながら推敲を重ね、論文が漸く仕上がれば、次はどのジャーナルに投稿するかを決めなければなりません。投稿するジャーナルを選ぶのは、非常に悩ましい問題といえましょう。巷で聞き及ぶには、1人の査読者が好意的な評価を下すのは、3本の論文のうち1本ようです。近年は、殆どのジャーナルで最低2名の査読者が付きますので、平均的な採択率は約10% ($1/9 \approx 0.11$) 程度です。従って、毎年、1本の論文を公刊しようと思えば、10本程度の論文を投稿せねばなりません。大学の業務の狭間を縫っての作業となるため、寝る間を削って時間を確保せざるを得ない状況に追い込まれます。実際に、ジャーナルに論文を掲載するのはなかなか大変なことです。ある人はこれを「研究者、特に若い研究者は、檻の中でサイクリングペダルを踏み続けるラットのようなものだ」と例えています。ところが、10年ほど前からこのペダルを漕ぎ続ける研究者の耳元に悪魔の囁きが聞こえるようになってきました。曰く、「あなたの研究分野に適合するジャーナルで、インパクトファクターも高く、査読も的確に行い、投稿から1～2週間で確実に良い結果を届けられる。採択論文はすぐに Internet 上に Open Access で公開する。若干の費用は要するが、研究費での支払いはもちろん可能」と。言わずと知れた **Predatory journals** です。

“Publish or Perish”の伝統が依然として強く残る欧米のアカデミック・ソサエティに、この囁きは瞬間に、より広く、より深く蔓延し、その結果、多くの論文が **Predatory journals** に掲載されることになりました。これに対する警鐘

は各方面より発せられ、よく知られているのは **Journal of Advanced Nursing** (2016) の Editorial として発行された A. Clark と D. Thompson による “Five (bad) reasons to publish your research in predatory journals” だと思います。私流にこの5つの理由を解釈すれば、

「Predator(ジャーナル)は次の5原則に基づき Prey(研究者)を襲う」となります。

1. 弱者を狙え (I do not care about my reputation)

Job マーケットにいるポスドクや博士号取得者の評価は様々な方法で行われますが、その中でも、専門ジャーナルに掲載された研究業績による評価方法は最も有用なものです。**Predatory journals** は若手研究者や未成熟な研究者に焦点を絞り、**Predatory journals** の掲載論文も「立派」な研究業績だと錯覚させます。残念ながら、適切な査読手続きを取らずに発行された論文の競争力はむしろ低く、さらには他に真つ当な業績があってもこの種の論文が書かれた履歴書自体の信頼性も失墜します。

2. 敗者を狙え (I do not believe in myself or my work)

何回にもわたる不採択通知を受け取って自信を喪失している研究者が標的となります。事実、自信のある論文をリジェクトされた時の精神的なダメージは大きく、そのような状況で「良さそうなジャーナル」からアクセプトをチラつかせられるとつい心の迷いが生じます。本当に良いジャーナルに投稿できるような論文を作成するには強靱な精神力もある程度求められます。**Predatory journals** を選択してしまうことはこの適度な健全性を阻害するものです。

3. 数は力 (Publication number count most)

自分の業績一覧が海外のジャーナル掲載

論文で埋め尽くされているのは魅力的かつ心地よいものです。これがまさに **Predatory journals** の目論見です。しかし、本来、アカデミックな評価は何を研究し、どのジャーナルに掲載されたかに基づく「研究の質」がまずは問われるものであり、質の向上を目指す過程で「研究の量」が必然的に増加するが正当といえましょう。刊行した論文の数を競っても、一義的な評価にはつながりません。

4. ジャーナル擬態(I cannot be bothered to read)

Predatory journals は投稿者を惑わせ、誤解を誘導するように著名ジャーナルを模したジャーナル名を付けます。**Journal of Economics and Finance (Springer)** や **Journal of Financial Economics (Elsevier)** は経済学分野ではよく知られている雑誌ですが、**Journal of Finance and Economics (Science and Education)** は **Predatory journal** です。他にも、**International Journal of Finance and Economics (Wiley)** に対して **International Journal of Economics and Finance (CCSE)** があります。CCSE は **Canadian Center for Science and Education** の略で一見まともそうですが、実は **Predatory Journal** です。

5. 確信犯的研究者(I have given up)

確信的に **Predatory journals** に投稿し、投稿料を支払い、業績に加える研究者が存在します。彼らは **Predatory journals** の上客・固定客であり、まさに **Predatory journals** の温床を作り上げている人達です。

Predatory journals はジャーナルと投稿者が Win-Win の関係を築いている、あたかもよくできたビジネス・モデルのような感がありますが、実態は不当な方法で投稿料・掲載料を徴収する詐欺まがいの悪徳ジャーナルといっても過言ではありません。この種のジャーナルに投稿した場合、翌日には採択通知が届いた、あるいは投稿

論文の共同研究者に査読依頼がきたなどよく仄聞します。明らかに適正な査読がなされていません。以下は、そうしたジャーナルにまつわる私の経験です。ある雑誌から査読を依頼され、分野が近かったこともあり、承諾しました。論文はデータの取り扱い方が粗雑で、理論的な分析が不十分でしたので、私は不採択との評価を雑誌の編者に伝えました。暫くすると、**minor revision** された論文が送られてきましたが、本質的な問題は修正されていなかったため、再度同様の判断を下しました。しかし、さらにまた **minor revision** の論文が送られてきました。2度目までは真摯に対応しましたが、3度目になり、最初から論文の質は問わず掲載ありきで、雑誌の編者の興味は掲載料の徴収のみにあると悟ったため、「編者の判断に任せる」と連絡して関係を断ち切離しました。確認はしていませんが、おそらく査読付論文としてその雑誌に掲載されているはずです。

Predatory journals も日々進化しているようで、通常のジャーナルとの区別が段々つきにくくなっていきます。Internet には **Predatory journals** に対する警告が数多くありますので、投稿前にはそれらをチェックして、向こうの術中に嵌らないように気をつけることが肝要です。私の好きな言葉に“easy come, easy go”があります。訳し方はいろいろあるのですが、**Predatory journals** に絡ませるならば、「そんないい話はないよ」あたりが適切かなと思います。

Ⅱ. 第 57 回日本地域学会年次大会(令和 2 年 9 月 11～13 日(予定))のご案内

令和 2 年度(2020 年)日本地域学会第 57 回年次大会は、東洋大学において下記の通り開催されます。会員諸賢におかれましては、論文報告、特別セッションの編成等、奮ってご参加下さい。

記

開催日: 令和 2 年 9 月 11 日(金)～13 日(日)(予定)
※日程の最終的な確定は 4 月となります。

開催校: 東洋大学

会場: 東洋大学白山キャンパス

〒112-0001 東京都文京区白山 5 丁目 28-20

大会準備委員会: 委員長 佐々木啓介(東洋大学経済学部・教授)

セッション:

共通論題

- a) 地域経済・地域雇用
- b) 産業集積・情報
- c) 環境評価・環境政策
- d) 地域環境・地球環境
- e) 国際経済政策
- f) 交通・コミュニケーション
- g) 経済分析・モデル分析
- h) 意識分析・行動分析
- i) 地方分権・地方財政・道州制
- j) 持続可能都市・地域システム
- k) 都市再生・地域再生
- l) 沿岸域管理・海洋政策
- m) ツーリズム
- n) アジア経済

一般論題

立地、人口移動、地域経済等の地域学一般の課題すべて

公開シンポジウム:

テーマ (仮題)人口減少時代の地域の持続可能性—省インフラ、コンパクトシティー

以上

論文報告・特別セッション編成の募集

論文報告と特別セッションの編成を希望される方は、下記の事項を明記し、日本地域学会事務局へ e-mail で応募して下さい。応募締切は令和 2 年 4 月 27 日(月)です。なお申込書は 3 月より学会のホームページからダウンロードできます。

[論文報告] 応募の必要事項

- 1. 論文タイトル
- 2. 上記が和文の場合には、同英文訳
- 3. 著者名、所属(複数の場合には発表者を明記)
- 4. 同上英文表記
- 5. Abstract 和文(700 字以内)および英文(200words 以内)の双方を提出
- 6. 対応責任者氏名、連絡先住所、tel, fax, e-mail アドレス等
- 7. 希望討論者 2 名(会員に限る。必ずしも希望通りとならないことをあらかじめご承知おき下さい)

[特別セッション編成] 応募の必要事項

- 1. セッションタイトルおよびセッションの意図、内容等の概要(和文 300 字以内、英文 100words 以内)
- 2. 座長(1-2 名の会員) 氏名、所属、同英文表記
- 3.1 セッション当たり 3-4 編の報告を目途に各論文についての上記論文報告希望に準ずるデータ。但し、討論者は各々の論文について 1 名でも可。
- 4. 応募責任者氏名、連絡先住所、tel, fax, e-mail アドレス等

論文報告等に関する問い合わせおよび応募は次の日本地域学会事務局宛にお願いします。

筑波大学生命環境系

水野谷研究室内

日本地域学会事務局

〒305-8572 つくば市天王台 1-1-1

tel, fax: 029-853-7221

メールによる応募: app@jsrsai.jp

メールによるお問合せ: sec@jsrsai.jp

応募申込書の入手: <http://jsrsai.jp/ja/>
年次大会の参加申込み

大会および懇親会の参加申込み方法は、次号のニューズレターおよび学会 HP にて公表する予定です。

学会 HP: <http://jsrsai.jp/ja/>

Ⅲ. 総会報告

令和元年度総会が、去る令和元年 9 月 13 日 13 時 30 分より、第 56 回（2019 年）年次大会の会場である久留米大学で開催されました。高橋会長（東北学院大学教授）より挨拶、急逝された Roger Stough 氏（RSAI 評議員等を歴任した他、日本地域学会にも多大なる貢献）に対する黙祷を行いその後、同会長を議長として審議および報告が行われました。つづく学会賞授与式では、酒井泰弘委員長からの経過報告の後、高橋会長より受賞者に各賞が授与され、総会は無事閉会しました。当日の次第、審議及び報告の内容は以下の通りです。

1. 議題

1) 新入会員・退会希望者の承認

水野谷総務担当常任理事より前回の総会以降の新入会員、退会会員について報告があり、これを承認。これをもって会員数は個人会員 1,054 名、法人 6 団体となった。

2) 平成 30 年度の事業報告の承認

水野谷総務担当常任理事より報告がありこれを承認。

3) 平成 30 年度の収支決算の承認

櫻井財務担当常任理事より報告後、薮田幹事より監査報告があり、これを承認。

4) 令和 2 年度の事業計画の承認

水野谷総務担当常任理事より 2020(令和 2)年度事業計画の報告があり、これを承認。

5) 2019(平成 31・令和元)年度の収支予算(修正案)の承認

櫻井財務担当常任理事より報告があり、こ

れを承認。

6) 令和 2 年度の収支予算の承認

櫻井財務担当常任理事より報告があり、これを承認。

7) 名誉会員の承認および楯の授与

副委員長の水野谷理事より名誉会員として 4 名の推薦の報告があり、これを承認。

第 36 代:多和田眞, 第 37 代:氷鮑揚四郎, 第 38 代:臼井功, 第 39 代:近藤光男, 新名誉会員を代表して多和田新名誉会員より挨拶があり、その後各氏に楯の授与が行われた。

8) 第 57 回（2020 年）年次大会の開催地開催校等の承認

水野谷総務担当常任理事より東洋大学で行うことが報告され、これを承認。東洋大学を代表して佐々木啓介会員が挨拶を行った。オリンピック・パラリンピックの開催に関連し、例年より開催日程が早まることが説明された。

9) 第 58 回（2021 年）年次大会の開催地、開催校等の取扱いの承認

水野谷総務担当常任理事より慣例に基づき西日本で候補を選定中であることが報告され、開催校の取り扱い等を承認。

2. 報告

1) 『地域学研究』第 49 巻の編集

多和田機関紙編集委員長より編集状況の報告があった。

2) Asia-Pacific Journal of Regional Science (APJRS) について

氷鮑企画担当より編集経過が報告された。また、Association Code の会費納入者に対する付与などについても報告があった。

3) RSAI の動向

渋澤理事より、2020 年 6 月にモロッコで開催予定の第 13 回世界大会についての案内及び欧州・北米の動向など報告された。

4) PRSCO の動向

渋澤理事より最近の RSAI の動向について報告があった。

3. 学会賞授与式

1) 選考経過報告

酒井委員長より学会選考委員会における選考経過について説明があった。

2) 第 28 回学会賞授与

高橋会長より以下各賞が授与され、出席した受賞者より挨拶が行われた。

(論文賞・奨励賞については今回授賞対象者は無かった)

功績賞：細江守紀

著作賞：曾根秀一、城月雅大

博士論文賞：吉田真悟、鈴木雅智

修士論文賞(熊田禎宣賞)：中村恵美

H30 年最優秀発表賞(第11回)：坂本大貴

藪田監事より滞り無く終了した旨説明があり、これを諒承。

3. 第 56 回(2019 年)年次大会の運営

水野谷総務担当常任理事より、前回理事会以降にあった研究報告及び座長、討論者の変更についての説明があり、これを諒承。

氷鉦企画担当理事より近年発表申し込み後のキャンセル数が多いことから、事前登録方法の変更の検討等その対策について考えることについて提案があり、これを諒承。

水野谷総務担当常任理事より、9 月 14 日に行われる総会についての説明があり、これを諒承。

4. 年次大会次期開催地・開催校について

水野谷総務担当常任理事より東洋大学で行うことが報告され、これを諒承。この後、東洋大学を代表して佐々木啓介会員が挨拶を行った。オリンピック・パラリンピックの開催に関連し、例年より開催日程が早まることが説明された。

5. 年次大会次々期開催地・開催校について

水野谷総務担当常任理事より、慣例により西日本における開催について検討したい旨の説明があり、これを諒承。

6. その他

なし

IV. 理事会報告

令和元年度日本地域学会第 5 回理事会

日 時：令和元年 9 月 13 日(金) 11:00-13:00

場 所：久留米大学御井学舎 御井本館 2 階 12A 教室

出席者：朝日、石橋、内田、木南(莉)、國光、櫻井、斎藤、佐々木、洪澤、鈴木、高橋、多和田、戸田、氷鉦、細江、水野谷、吉田の各理事(ただし、浅見、阿部、鐘ヶ江、斎藤、高橋、徳永、中山、野崎、福井、正岡、松本、三友、柳原の各理事より委任状付託；以上理事 30 名出席)；オブザーバとして藪田、梶井監事、臼井名誉会員推薦委員長、酒井学会賞選考委員長、小川、内藤、黛の各幹事、Springer 平地、川本事務局秘書

議題

1. 新入会員・退会希望者の承認

高橋会長より、個人会員(1 名)の入会希望と個人会員(2 名)の退会希望があった旨報告があり、これを審議した結果、総会に諮る事を諒承された。この結果、個人会員 1,054 名、法人会員 6 団体となる。

2. 平成 29 年度監査報告

報告事項

1. 『地域学研究』第 49 巻の編集

多和田理事より編集状況について報告があった。

2. Asia-Pacific Journal of Regional Science (APJRS)について

氷鉦企画担当理事より、APJRS の編集状況に関して報告があった。

3. New Frontiers in Regional Science: Asian Perspectives (NFRSAP)について

氷鉦企画担当理事より、NFRSAP について関して報告があった。特集号企画の呼びかけがあった。

4. RSAI の動向

木南(莉)理事及び氷鮑企画担当理事より、
RSAIの動向について報告があった。

5. PRSCOの動向

渋澤庶務担当常任理事より、最近のPRSCOの動向の報告があった。また、2020年2月にWARSAIハワイホノルル、さらに2020年7月にベトナムホーチミン、2021年京都、2022年フィリピン、2023年韓国、2024年ミャンマー大会が開催される予定であることが併せて報告された。

6. その他

なし

令和元年度日本地域学会第6回理事会（持回り）

日時：令和元年10月7日（月） 15：00

議題

1. 「日本地域学会『地域学研究』掲載論文等の執筆要綱を定める規程」の改正（案）
内容につき審議に付し、承認が得られた。
2. 「日本地域学会『地域学研究』掲載論文等の執筆要綱を定める規程を改正する規程」の制定（案）
内容につき審議に付し、承認が得られた。

令和元年度 日本地域学会 第7回理事会

日時：令和元年12月15日（日）13:00-15:00

場所：学術総合センター会議室 2階会議室
202・203

出席者：多和田、細江、高橋、櫻井、渋澤、内田、石橋、鐘ヶ江、木南(莉)、國光、佐々木、鈴木、高野、高橋、多和田、徳永、中山、野崎、氷鮑、細江、正岡、松本、水野谷の各理事（ただし、浅見、阿部、戸田、三友、柳原、吉田の各理事より委任状付託；以上理事29名出席）；オブザーバとして臼井、河野、三橋の各顧問、酒井顧問兼学会賞選考委員長；内藤、森岡、小川、野崎（乃）、黛の各幹事；内村事務局秘書

議題

1. 新入会員・退会希望者の承認（資料1）

水野谷常任理事より前回の理事会から今回までの理事会まで新入会員、退会希望者につ

いて報告され、これを諒承。個人会員1,057名
法人会員6団体となる。これを諒承。

2. 第56回年次大会会計報告（資料2）

実行委員会の代理として細江理事より年次大会収支報告があった。さらに、水野谷常任理事より事務局経費の報告があった。これを諒承。

3. 第57回（2020年）年次大会準備委員会の構成（資料3）

佐々木理事より57回年次大会の準備状況の説明がなされた。東京オリンピック・パラリンピックの関係により日程の最終的な確定は4月となる旨の報告があった。これを諒承。

4. 日本学術会議会員・連携会員の候補者に関する情報提供について（資料4）

水野谷総務担当常任理事より、候補者の推薦についての説明があった。

氷鮑企画担当理事より推薦についての提案がなされ、これを諒承。

5. 『地域学研究』セット販売の推進（資料5）

水野谷総務担当常任理事より、『地域学研究』セット販売の推進についての説明と依頼があり、これを諒承。

6. 新入会員勧誘キャンペーンの推進（資料6）

高橋会長より新入会員勧誘キャンペーンの推進について説明と依頼があり、これを諒承。また、入会勧誘キャンペーン担当者の変更について提案があり、これを了承。

7. その他

特になし。

報告事項

1. 令和元年第6回理事会（持回り）

水野谷総務担当常任理事より、令和元年第6回理事会（持ち回り）についての報告がされた。

2. 第64回機関誌編集委員会報告（資料7,8,9）

多和田編集委員長より、機関誌編集委員会で議題となったEditorial Managerの位置づけについての説明がされた。また第49巻2号

及び第 50 巻 1,2 号の編集状況についての報告がされた。加えて、第 56 回年次大会の座長評価に基づく地域学研究への論文執筆依頼についての報告がされた。

氷鉋企画担当理事より APJRS の編集状況についての報告がされた。

3. 第 2 回学会賞優秀発表賞選考委員会・第 3 回学会賞選考委員会報告

酒井委員長より、第 2 回学会賞優秀発表賞受賞者についての報告がされた。決定した 6 名の受賞者の中から最優秀発表賞を決める旨の報告がされた。

4. RSAI の動向

氷鉋企画担当理事より、RSAI の動向について報告がされた。World Congress が 2020 年 6 月にモロッコで予定されている旨報告がされた。

5. PRSCO の動向

洪澤理事より、PRSCO の動向について報告がされた。2020 年 3 月に Pacific Conference of the RSAI が米国ハワイ州オアフ島、2020 年 7 月に Summer Institute がベトナム・ホーチミンで開催されることについて説明がされた。

氷鉋企画担当理事より、故宮田譲 本学会元副会長に関するスペシャルセッションの企画について説明がされた。

6. 日本経済学会連合 2019 年度第 2 回評議委員会について (資料 10)

鐘ヶ江理事より評議委員会について報告がされた。

氷鉋企画担当理事より、国際会議派遣補助の応募について提案がされた。

7. その他

水野谷総務担当常任理事より、今後の理事会の開催予定日について説明された。内田理事より、APJRS 英文ジャーナルについて説明がされた。

V. 委員会報告

1. 優秀発表賞選考委員会

優秀発表賞選考委員会（委員長 酒井泰弘 滋賀大学名誉教授）では、第 56 回年次大会での発表を対象とした慎重な審議により、下記の会員の方々に令和元年度日本地域学会学会賞優秀発表賞を授与する事を決定しました。また優秀発表賞選考委員会での審議は継続しており、今後、今回の優秀発表賞受賞者の中から 1 名の最優秀発表賞受賞者が決定される予定です。最優秀発表賞の授与式は、本年の年次大会(東洋大学)で執り行われる予定です。

優秀発表賞：

米光結衣（豊橋科学技術大学）

主題：九州地域における流域水害の経済被害と復旧プロセスの評価

留野僚也（立命館大学）

主題：地域防災行動意図における社会的手抜きの規定因に関する研究

長宗武司（岡山大学）

主題：空間的要素を考慮した経済基盤乗数の推定

Sohel Rana (Niigata University)

主題：Disaster Risk Management (DRM) in a Haor Area of Bangladesh: Focusing on the Household Level

Vo Hoang Ha (University of Tsukuba)

主題：Climate Change Awareness and Adaptation: A Case Study of Smallholder Farmers in Costal Areas, Phu Vang District, Vietnam

Roni Armis (Ritsumeikan University)

主題：Tourism Destination Competitiveness Model for a Small-sized Post-mining City: Case of Indonesia –

2. 機関誌編集委員会報告

日本地域学会 第 64 回機関誌編集委員会

日時:令和元年 12 月 15 日 (日) 11:00-12:00

場所: 学術総合センター会議室

出席者: 多和田, 木南 (章), 石橋, 内田, 木南 (莉), 鐘ヶ江, 酒井, 櫻井, 佐々木, 洪澤, 鈴木, 徳永, 氷鮑, 細江, 水野谷 (但し, 浅見, 戸田, 藤岡, 三友, 柳原, 吉田の各委員より委任状付託; 以上編集委員 21 名出席); オブザーバとして森岡, 黛, 小川, 内藤, 野崎 (乃) の各幹事; 内村事務局秘書

議題

1-1) 「地域学研究」第 49 巻・第 50 巻編集状況
多和田委員長よりレフェリー評価にもとづく第 49 巻及び第 50 巻の掲載候補論文の選考状況について報告があった。

1-2) 第 51 巻掲載候補論文の選考
第 56 回年次大会の発表論文に対する座長評価に基づき, 掲載候補論文の対象を決定した。

2) 「地域学研究」機関誌印刷方針
第 49 巻の発行状況・計画を確認するとともに, 第 50 巻の印刷方針を決定した。

3) 日本地域学会機関誌編集委員会(Editorial Manager: EM) 規程について
多和田委員長より日本地域学会機関誌編集委員会(Editorial Manager: EM) 規程案についての説明があり, 今後更に検討を進めることとなった。

4) 「地域学研究」執筆要領について
内田委員及び多和田委員長より現状の EM(Editorial Manager) に合わせた「地域学研究」執筆要領修正案の提案があり, 今後更に検討を進めることとなった。

5) Asia-Pacific Journal of Regional Science (APJRS) について
氷鮑企画担当理事より, APJRS の編集状況に関して報告があった。また, 今後の編集委員の更新についての説明があった。

6) その他
内田委員より, 「地域学研究」の査読過程において修正依頼がなされているものの, 長

期間著者からのレスポンスが無い投稿論文の扱いに関する提案がなされた。

VI. 会費納入のお願い

日本地域学会会員各位

日本地域学会
会長 高橋 秀悦

謹啓 貴会員におかれましては益々御健勝のこととお慶び申し上げます。さて, 早速ですが, 同封致しました請求書の通り, 日本地域学会令和 2 年度会費をご請求申し上げますので,

納入期限 令和 2 年 3 月末日

までに同封の振込用紙にてお支払いいただけますようお願い申し上げます。

なお, 預金口座引落しの手続きを令和 2 年 3 月 17 日までに完了された方には, 令和 2 年 6 月 29 日に請求内容にしたがって引落しを行いますのでお早めに手続きをおとり下さる様お奨め致します。また, 学生会員年会費の適用には学生証(写し)の提出が必要ですので, pdf か封書にて, 学会事務局までお送りください。

何かと出費のかさむ折から誠に恐縮ですが, 事務処理の円滑化および再度にわたる督促の経費節減のため上記期限までの早期納入にご協力いただけますよう, かさねてお願い申し上げます。

敬具

1. 令和 2 年度日本地域学会会費等(適用期間限定)

令和 2 年度(令和 2 年 4 月 1 日ー令和 3 年 3 月 31 日)

一般会員年会費 13,000 円

学生会員年会費 8,000 円

但し, これらの会費, 購読料が適用されるのは,

a) 納入期限(令和 2 年 3 月末日) までに上記会費を納入された日本地域学会会員の方,

b) 令和 2 年 3 月 17 日までに預金口座引落しの

手続きを完了された日本地域学会会員の方、または、

c) 4月以降に校費（公費）から支出する事を希望し、納入期限（令和2年3月末日）までにその旨、および支払予定日を事務局に申し出た日本地域学会会員の方、に限りますのでご注意ください。

2. 会費の期限内納入の特典

上記納入期限に遅れた場合には、会費関連の事務処理が煩雑となることを考慮して、日本地域学会では、

- 1) 一般会員年会費として 14,000 円を請求する
- 2) 学生会員年会費として 9,000 円を請求するという事を決定致しております。この主旨をご理解いただき、会費関連の事務処理の円滑化、経費節減にご協力頂けますよう、事務局からも重ねてお願い申し上げます。

3. Web 会員

本学会機関誌『地域学研究』の電子ジャーナルを、J-STAGE（科学技術情報発信・流通総合システム）により発行しております。これにより、会員の研究成果が広く世界に向けて情報発信されております。Web 会員に登録されますと、最新の論文が電子ジャーナル（本文 PDF）として閲覧可能となります。Web 会員登録を希望される方は、学会のホームページから、電子ジャーナル『地域学研究』個人購買者認証申込書(Web 個人会員)をダウンロードしていただき、ご記入の上、事務局までお申し込みください。

Web 会員価格（令和2年4月1日ー令和3年3月31日）は以下ようになります。

- 1) 学会正会員である個人（Web 個人会員 A）年会費 2,000 円
- 2) 学会非会員である個人(Web 個人会員 B)* 年会費 5,000 円
- 3) 本学会法人会員である団体もしくは機関（Web 機関会員 A）年会費 10,000 円
- 4) 本学非会法人会員である団体もしくは機関

（Web 機関会員 B）* 年会費 40,000 円

* Web 個人会員 B と Web 機関会員 B は、電子ジャーナル閲覧のみのサービスとなります。

4. RSAI（国際地域学会）への会員登録について

平成23年度から RSAI（国際地域学会）への会員登録の方法が変更になっております。従来より日本地域学会の会員は自動的に RSAI（国際地域学会）の会員として登録されておりましたが、会員の増加に伴う国際本部事務局の負担を軽減するため、会員情報を電子メールアドレスで管理する事になりました。したがって今後は、会費を納入する事に加え、電子メールアドレスを日本地域学会事務局に登録することが必要となります。今後も引き続き RSAI（国際地域学会）の会員となることを希望される会員で、電子メールアドレスを日本地域学会事務局に登録されていない方は、会費の納入に合わせて電子メールアドレスを事務局にお知らせください。また RSAI への電子メールアドレスの通知に同意されない方は、日本地域学会事務局にその旨、お知らせください。

VII. 国際地域学会関連会議のお知らせ

13th World Congress of the RSAI がモロッコで、17th PRSCO Summer Institute 2020 がベトナム ホーチミンで開催されます。

会員諸賢におかれましては奮ってご参加ください。

13th World Congress of the RSAI

会議名：13th World Congress of the RSAI

開催日：2020年6月2～5日

開催地：モロッコ

会場：Mogador Palace Agdal, Marrakech, Morocco

* 特別セッション及び一般セッションアブストラクトの受付は既に締め切られました。
大会ホームページ：

<https://www.regionalscience.org/2020worldcongress/index.html>

17th PRSCO Summer Institute 2020

開催日：2020年7月29日～31日

開催地：ベトナム・ホーチミン

会場：RMIT, Saigon South Campus, Ho Chi Minh City

大会ホームページ：

<https://www.rmit.edu.vn/17th-prsco-summer-institute>

VIII. 学会賞候補者推薦の募集

日本地域学会では、地域科学 (Regional Science) の発展に貢献する優れた会員の業績をたたえる為、日本地域学会学会賞を毎年授与しています。今年度も日本地域学会学会賞（第29回）授賞選考候補者の推薦の募集を行いますので、どうか奮ってご応募下さい。学会賞は以下の各賞からなります。

功績賞：地域科学の進歩および学会の運営に顕著な貢献をなした会員を表彰する。

論文賞：すぐれた研究論文によって地域科学の発展に著しく寄与し、研究業績の意義や貢献が多大である会員を表彰する。

奨励賞：若手研究者ですぐれた研究論文を発表した会員を表彰する。

著作賞：地域科学の発展に著しく寄与し、その意義や貢献が多大である著作物を表彰する。

学位論文賞：本学会会員である博士または修士課程修了者がその修了要件として提出したすぐれた学位論文を表彰する。

優秀発表賞：年次大会においてすぐれた論文発表を行った会員に優秀発表賞を授与する。

このうち最も優秀な論文発表を行った会員に最優秀発表賞を授与する。

功績賞・論文賞・奨励賞・最優秀発表賞受賞者には賞状とメダルが、著作賞・学位論文賞・優秀発表賞受賞者には賞状が授与されます。

第29回日本地域学会学会賞 授賞選考候補者推薦応募要領

◇応募期限：

1) 功績賞・論文賞・奨励賞・著作賞・学位論文賞

令和2年4月3日（金）（事務局必着）

2) 優秀発表賞

令和2年4月27日（月）（年次大会発表申し込みと同時に、事務局必着）

◇応募方法：功績賞への応募は他薦のみ、優秀発表賞への応募は自薦のみですが、その他への応募は自薦、他薦を問いません。専用の応募用紙を事務局に提出して下さい。

◇推薦資格：推薦者は、日本地域学会会員であることが必要です。

◇受賞資格等：

1) 論文賞および奨励賞の表彰対象となる研究業績は、過去2年間（暦年）に発表したもので、その主たるものが本学会関連誌『地域学研究 (Studies in Regional Science)』, Papers in Regional Science of the RSAI 又は Asia-Pacific Journal of Regional Science に掲載されている論文であることが条件です。

2) 奨励賞の応募については、年齢がその表彰対象となるべき主たる研究業績の発表当時 35 才未満であった事が必要です。

3) 著作賞の表彰対象となる著作物については、過去2年以内に出版もしくは公表された研究図書であることが条件です。

4) 学位論文賞については、表彰の時点において修了後3年以内のもので、当該学位論文に関連した学術論文を本学会の学術セッションで発表しているか、または本学会機関誌『地域学研究』あるいはこれに準ずる専門誌に掲載または掲載可として受理されていることが条件となります。

なお、年齢による制限はありません。

5) 優秀発表賞については、以下のいずれかである必要があります。①授賞対象となる論文発表の年度末において30歳以下である会員、②授賞対象となる論文発表時において大学院に在籍する会員、③年次大会の Early-bird Session (アーリー・バードセッション) で発表する会員であり、理事会がその表彰を適当と認めた会員。更にいずれの場合も、対象となる論文の第一著者であり、かつ年次大会当日に口頭発表を行う本人である必要があります。

◇選考方法: 「日本地域学会学会賞(奨励賞・論文賞・功績賞)に関する規程」、「日本地域学会著作賞に関する規程」、「日本地域学会学会賞学位論文賞規程」、「日本地域学会学会賞優秀発表賞規程」に基づく選考委員会の審議による。決定次第、受賞者には連絡します。

◇授賞式: 第57回年次大会における総会(令和2年9月 東洋大学)にて執り行います。最優秀発表賞については、翌年の年次大会で執り行います。

◇応募用紙の請求: 日本地域学会事務局まで賞の種別を明記してご請求下さい。優秀発表賞については、年次大会発表申込用紙中に応募欄があります。

IX. 会員の移動

平成30年10月8日～令和元年9月14日

新入会員

正会員 49名

石渡(石川)由紀

菊池 晃平

清水 改

杉山 雄

鈴木 雅智

塚田 雄太

辻 隆司

中村 恵美

仲山 隆人

平児 慎太郎

藤井 資子

古家 淳

松下 秀介

松本 祐香

山田 翔太

楊 巍

吉田 えり

米光 結衣

園田 美保

加藤 巖

亀崎 龍一

橋本 茉依

呉 宣児

清水 和哉

倉橋 透

宋 俊年

中尾 彰文

田中 正紀

馬場 康郎

劉 偉光

AGRIANSYAH EMIR WAHANA

APRILIAN KHARISMA

BAFFOE JONATHAN DARKWAH

CHAUTALA ANDREWS

FRANSISKUS

HA VO HOANG

HARDINI RAFIKA

KLAUVIM VALENTINA

MAKMUR

Mendez Carlos Alberto

NABILAH IZATANI

NNOKO EKOTE NELSON

NZOGHE NGOME NATHANAEL

PRADNYAWATI YAN

Rana Sohel

SALEEM UMER

SALIM G.M

UMMU ALYAA BINTI HASHIM
Zagdragchaa Otgonbayar

会員数
個人会員 1,054 名
法人会員 6 団体

退会会員

正会員 32 名

荒木 浩太朗

有馬 昌宏

伊藤 大輔

今泉 博国

片石 温美

栗岡 理子

桑原 洋一

小泉 達治

後藤 和雄

坂井原 直樹

鈴木 多加史（逝去）

鈴木 羽留香

武林 雅衛

田中 良賢

田中 美子

徳岡 一幸

富田 佳奈

友利 廣

長野 章

中村 彰宏

南林 さえ子

人見 和美

藤木 秀明

古川 泰隆

松山 敬左（逝去）

宮下 國生

森野 真理

山本 充

Andrade, Katia

Mohamad Safuwan Bin Alias

Rojas Cabrera Ailyn Edith

Shirley Dirreblekuu Koshiba

『地域学研究』バックナンバー/ 定期購読申込書

宛先: 筑波大学生命環境系水野谷研究室
〒305-8572 つくば市天王台 1-1-1
tel +81-29-853-7221 (fax)

日本地域学会事務局 御中

☐ 日本地域学会機関誌の定期購読を申込ます (8,000 円/ 年)。 (PRINT ISSN: 0287-6256)

☐ 下記のとおり、日本地域学会機関誌のバックナンバーを申込ます。

令和 年 月 日 氏名:

印

所属:

住所:

電話, fax:

E-mail:

記念事業セット販売					
フルセット:『地域学会年報(1-6号)』+『地域学研究(第1-48巻)』				580,000円	
セミセット:『地域学研究(第1-48巻)』				550,000円	
				小計	円
『地域学会年報』(第1-6号)					
1号 10,300円		2号 10,300円		3号 10,300円	
4号 10,300円		5号 10,300円		6号 10,300円	
『地域学研究』(第1-19巻)					
第1巻 8,000円		第2巻 8,000円		第3巻 8,000円	
第4巻 8,000円		第5巻 8,000円		第6巻 8,000円	
第7巻 8,000円		第8巻 8,000円		第9巻 8,000円	
第10巻 8,000円		第11巻 10,000円		第12巻 10,000円	
第13巻 8,000円		第14巻 8,000円		第15巻 10,000円	
第16巻 8,000円		第17巻 10,000円		第18巻 10,000円	
第19巻 9,400円					
『地域学研究』(第20-28巻) no.1,no.2					
第20巻 no.1 9,000円		第20巻 no.2 3,500円		第21巻 no.1 10,000円	
第21巻 no.2 3,500円		第22巻 no.1 10,000円		第22巻 no.2 3,500円	
第23巻 no.1 10,000円		第23巻 no.2 3,500円		第24巻 no.1 10,000円	
第24巻 no.2 3,500円		第25巻 no.1 10,000円		第25巻 no.2 3,500円	
第26巻 no.1 10,000円		第26巻 no.2 3,500円		第27巻 no.1 10,000円	
第27巻 no.2 3,500円		第28巻 no.1 10,000円		第28巻 no.2 3,500円	
『地域学研究』(第29巻-)no.1,no.2,no.3					
第29巻 no.1 7,000円		第29巻 no.2 3,500円		第29巻 no.3 7,000円	
第30巻 no.1 7,000円		第30巻 no.2 3,500円		第30巻 no.3 7,000円	
第31巻 no.1 7,000円		第31巻 no.2 3,500円		第31巻 no.3 7,000円	
第32巻 no.1 7,000円		第32巻 no.2 3,500円		第32巻 no.3 7,000円	
第33巻 no.1 7,000円		第33巻 no.2 3,500円		第33巻 no.3 7,000円	
第34巻 no.1 7,000円		第34巻 no.2 3,500円		第34巻 no.3 7,000円	
『地域学研究』(第35巻-)1ボリューム4冊一括販売 16,000円; 8,000円/冊					
第35巻 no.1		第35巻 no.2		第35巻 no.3	
第36巻 no.1		第36巻 no.2		第36巻 no.3	
第37巻 no.1		第37巻 no.2		第37巻 no.3	
第38巻 no.1		第38巻 no.2		第38巻 no.3	
第39巻 no.1		第39巻 no.2		第39巻 no.3	
第40巻 no.1		第40巻 no.2		第40巻 no.3	
第41巻 no.1		第41巻 no.2		第41巻 no.3	
第42巻 no.1		第42巻 no.2		第42巻 no.3	
第43巻 no.1		第43巻 no.2		第43巻 no.3	
第44巻 no.1		第44巻 no.2		第44巻 no.3	
第45巻 no.1		第45巻 no.2		第45巻 no.3	
第46巻 no.1		第46巻 no.2		第46巻 no.3	
『地域学研究』(第47巻-)1ボリューム2冊一括販売 8,000円; 6,000円/冊					
第47巻 no.1		第47巻 no.2		第48巻 no.1	
第49巻 no.1		第49巻 no.2			

※第48巻以降セット販売の場合、第47巻までのセット価格+第48巻以降1巻当たり30%割引価格となります

購入総額合計 _____ 円

※ 申込該当箇所に○をする。□にはチェックする。

機関購入の場合は、氏名、所属に見積り、納品、請求書宛名機関名等を記入、責任者押印 以上

令和元 年 12 月 15 日改定

日本地域学会 正会員 入会申込書

20 年 月 日

日本地域学会
会長 高橋 秀悦 殿

日本地域学会 会則第5条に定める正会員として下記の通り入会を申し込みます。

氏名： 印

記

ふりがな			年 月 日生 歳 ※男・女
氏 名			同英文 (last name, first name)
所 属 先	機関名	(年 月より)	
	所 属	同英文	
	職 名	同英文	
	所在地	〒 同英文	
	電話： ()		fax: ()
	e-mail		
自 宅	住 所	〒 配送希望先※ (どちらかを○) 勤務先・自宅 同英文	
	電話： ()		fax: ()
	e-mail		
学 歴	年 月入学 年 月※卒業・修了・満期退学		
職 歴	年 月 年 月		
	年 月 年 月		
専 門 分 野	専攻：		学位： (大学)
	Regional Science Association International (RSAI) の研究領域分類 (複数回答可, 入会案内参照)		
	I. ISSUE ORIENTATION		II. THEORETICAL/METHOD-LOGICAL ORIENTATION
	III. MODE OF ANALYSIS		IV. REGIONAL FOCUS
所属他学会			
紹介者 (会員に限る)		印	

以上 (※は該当項目に○をする)

事務局記入欄	入会承認	年 月 日 第 回理事会	退会承認	年 月 日 第 回理事会
--------	------	--------------	------	--------------

MEMO

日本地域学会ニューズレター (正誤表)

令和2年 no.1

令和2年2月28日

下記、第5回・第7回理事会報告の出席者一覧に間違いがありました。

(正)

(誤)

IV. 理事会報告 (6・7 ページ)

令和元年度日本地域学会第5回理事会

日時：令和元年9月13日(金) 11:00-13:00

場所：久留米大学御井学舎 御井本館2階12A
教室

出席者：朝日、石橋、内田、木南(莉)、櫻井、斎藤、佐々木、渋澤、鈴木、高橋、多和田、戸田、氷鮑、細江、水野谷、吉田の各理事(ただし、浅見、阿部、鐘ヶ江、徳永、中山、野崎、福井、正岡、松本、三友、柳原の各理事より委任状付託；以上理事27名出席)；オブザーバとして藪田、梶井監事、臼井名誉会員推薦委員長、酒井学会賞選考委員長、小川、内藤、黛の各幹事、Springer 平地、川本事務局秘書

出席者：朝日、石橋、内田、木南(莉)、國光、櫻井、斎藤、佐々木、渋澤、鈴木、高橋、多和田、戸田、氷鮑、細江、水野谷、吉田の各理事(ただし、浅見、阿部、鐘ヶ江、斎藤、高橋、徳永、中山、野崎、福井、正岡、松本、三友、柳原の各理事より委任状付託；以上理事30名出席)；オブザーバとして藪田、梶井監事、臼井名誉会員推薦委員長、酒井学会賞選考委員長、小川、内藤、黛の各幹事、Springer 平地、川本事務局秘書

令和元年度 日本地域学会 第7回理事会

日時：令和元年12月15日(日) 13:00-15:00

場所：学術総合センター会議室 2階会議室
202・203

出席者：石橋、内田、鐘ヶ江、木南(莉)、國光、櫻井、渋澤、佐々木、鈴木、高野、高橋、多和田、徳永、中山、野崎、氷鮑、細江、正岡、松本、水野谷の各理事(ただし、浅見、阿部、戸田、三友、柳原、吉田の各理事より委任状付託；以上理事26名出席)；オブザーバとして臼井、河野、三橋の各顧問、酒井顧問兼学会賞選考委員長；内藤、森岡、小川、野崎(乃)、黛の各幹事；内村事務局秘書

出席者：多和田、細江、高橋、櫻井、渋澤、内田、石橋、鐘ヶ江、木南(莉)、國光、佐々木、鈴木、高野、高橋、多和田、徳永、中山、野崎、氷鮑、細江、正岡、松本、水野谷の各理事(ただし、浅見、阿部、戸田、三友、柳原、吉田の各理事より委任状付託；以上理事29名出席)；オブザーバとして臼井、河野、三橋の各顧問、酒井顧問兼学会賞選考委員長；内藤、森岡、小川、野崎(乃)、黛の各幹事；内村事務局秘書